

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「心理的安全性」をキーワードに、「安心して相談できる関係性」や「積極的な挑戦を後押しする環境」を構築し、「やってみよう！」「できた！」を増やす、多様性を認めて相互に支え合うことができる前向きな学校をめざして、次の取り組みを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

キャッチフレーズ：「めざす子ども像の実現に向け、根拠に基づくユーモアのあるユニークな取り組みに挑戦！」

- (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する
- ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- イ 自立活動を推進する
- ウ 効果的な指導方法を検討する
- エ シラバス活用を促進する
- (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる
- ア コース制での学習の充実を図る
- イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る
- (3) 時代にマッチした教育理論を構築する
- ア 効果的な指導支援体制を研究・推進する
- イ カリキュラム・マネジメントを充実させる
- ウ ICT を活用した取り組みを推進する
- エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- オ 人権感覚を育む
- カ いじめの未然防止に努める
- キ 防災・防犯に努める
- (4) 次世代教員を育成する
- ア 人権感覚を高める
- イ 他学部との取り組みを知る機会を作る
- ウ アレルギー対応の強化を図る

2 保護者・地域・関係機関との連携

キャッチフレーズ：「認め合い とともに子どもを 育てよう！」

- (1) 保護者との連携を深める
- ア 保護者が進路情報を取得する機会を充実させる。
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- ウ 自主単独通学により社会性を育む
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する
- ア 学校間交流を実施する
- イ ボランティア募集活動の推進する
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う
- ア デジタル化を推進する
- イ 興味がわく情報発信を行う

3 働き方改革

キャッチフレーズ：「何を言っても大丈夫 困ったときはお互い様 みんなが安心 良い職場！」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う
- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う
- (2) 教職員が働きやすい環境整備
- ア 教材バンクの活用を促進する
- イ グラウンドを使いやすくする
- ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する
- エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す
- オ 写真撮影・販売等の業務を削減する
- カ ダイアルインを導入し、活用を進める
- キ ICT を活用して業務の効率化を図る
- ク 会議の円滑化・充実を図る
- (3) 業務推進体制を整理する
- ア 校務分掌体制を整理する
- イ 情報共有体制の強化を図る
- ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る

4 地域支援

キャッチフレーズ：「未来をつなぐ次世代のLS 育成 ～ 学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！ ～」

- (1) 地域との連携強化を図る
- ア 校内の支援コーディネーターの育成を図る
- イ 校外の支援コーディネーターの育成を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

	高等部・生活指導部＞ オ 人権感覚を育む ＜担当首席＞ カ いじめの未然防止に努める ＜生活指導部・高等部＞ キ 防災・防犯に努める ＜担当首席・生活指導部＞ (4) 次世代教職員を育成する ア 人権感覚を高める ＜高等部・管理職＞ イ 他学部との取り組みを知る機会を作る ＜担当首席＞ ウ アレルギー対応の強化を図る ＜健康教育部＞	<u>笑顔と声で迎える朝 元気のスイッチ ON！</u> ・学部を越えて児童生徒会が一緒に朝のあいさつ運動を実施する <u>ねやがわしボリ्यूション！</u> ・50 周年の様々な記念事業で高まった機運を継続していく意識の構築を図る オ <u>あなたらしく 私たちらしく</u> ・人権をテーマにした教育を授業で実施する カ <u>みんなで守ろう、みんなの笑顔！</u> ・「いじめ対策委員会」を学期 1 回開催、いじめに繋がる事案等の確認を行い、未然防止に努める ・いじめ事案が確認されたら即ち委員会を開催し、組織としての対応を検討する ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・保護者へ効果的に周知する ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生徒に向け、いじめ防止に関する講話の実施 キ <u>みんなで助かる防災計画！</u> ・児童生徒は元より、教職員も含め全員で助かる防災計画の確認を行う <u>みんなで守る安全な学校、</u> <u>ヒヤリハットが第一歩！</u> ・ヒヤリハット報告を通して教職員の安全意識を向上させ、事故や災害の未然防止を図る ・学期初めにヒヤリハット報告の協力依頼を職朝時に行う ・必要に応じて、ヒヤリハット情報を職朝で共有する <u>一人ひとりのチェックで安心</u> <u>みんなの未来！</u> ・マニュアルや校内の実情に応じた訓練、双方を実施する (4) ア <u>子どもの人権尊重！</u> <u>広げよう「前向き」「認める」言葉かけ！</u> ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティブな言葉かけで行動を促す イ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！</u> <u>寝屋川ファミリー（教員版）</u> ・教職員の学部間交流を計画・実施する ウ <u>誰でもわかる！給食と食物アレルギー</u> ・年度当初のマニュアル説明、食物アレルギーに関する研修の実施、しおり・マニュアルの各クラス配備により、絶対に食物アレルギー事故を起こさない体制の構築を行う	・あいさつ運動 週 1 回以上 オ ・50 周年記念ダンス 学期 1 回以上 カ ・記念ソングのバス降車合図として活用 ・人権学習 年 1 回 ・人権推進委員会開催 学期 1 回 ・学校教育自己診断の保護者評価 「いじめについて」65%以上[63%] キ ・防災計画の確認・修正の実施 ・ヒヤリハット報告提出数 R6 年度比 80%増 ・防災訓練（必須訓練及び誤報に関する訓練 各 1 回以上） ・防犯訓練（教員・児童生徒各 1 回） (4) ア ・准校長の授業観察、部主事等からの聞き取りで確認 年 1 回以上 イ ・十分な準備のもと、他学部のみドルリーダー等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う 年 1 回 ウ ・食物アレルギー研修実施 年 1 回以上 ・マニュアル活用状況アンケート実施	
2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携を深める ア 保護者が進路情報を取得する機会を充実させる。 ＜進路指導・高等部＞ イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る ＜保健室＞ ウ 自主単独通学により社会性を育む ＜生活指導部＞ (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア 学校間交流を実施する ＜高等部＞ イ ボランティア募集活動の推進する ＜担当首席＞ (3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する ＜担当首席＞ イ 興味がわく情報発信を行う ＜担当首席＞	(1) ア <u>進路、もっと知りたいねん！</u> <u>～主体的に切り拓く進路～</u> ・本校の進路の流れや取り組みについて動画配信し、保護者が進路について知り、進路選択しやすくなるようにする。 ・2回目となる福祉事業所合同説明会をより充実したものにする。 イ <u>相談室へいらっしやい！</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する ・できるだけ担任も同席し話を共有する ウ <u>はじめよう自主単を！</u> <u>身につけ伸ばそう社会性！</u> ・保護者と連携し、自主単独通学生徒を増やし活動を通して社会自立に向けた力を育む (2) ア <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う イ・<u>地域の力を結集して、</u> <u>子どもたちの未来を育もう！</u> ・スクールボランティア数を増やして、子どもたちへの教育環境を充実させる ・ボランティア募集のチラシを学校 HP に掲示すると共に、近隣大学へ配付を実施 (3) ア <u>デジタルの窓でつながる</u> <u>みんなの学びと笑顔！</u> ・児童生徒の取り組みを、来校した保護者にわかりやすく情報発信するためにサイネージを設置する イ <u>「みんなの学校ブログ」</u> <u>～学校のワクワクをブログで発信！～</u> ・児童生徒が主体となって、寝屋川支援学校の	(1) ア ・動画の作成、配信 年 1 本以上 ・事業所、保護者の来場アンケートでの満足度 80%以上 イ ・学期 2 回以上の実施 ・1 回につき 3 件以上の相談 ウ ・自主単独通学生徒数 R6 年度比 40%増 (2) ア ・学校間交流実施 年 1 回以上 イ ・スクールボランティア登録者数 R6 年度比 80%増 (3) ア ・学校教育自己診断の保護者評価 「教育情報の提供」85%以上[81%] イ ・児童生徒からのブログ投稿 年間 50 件以上	

		魅力を学校ブログで発信する		
3 働き方改革	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる <管理職> イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う <管理職> (2) 教職員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を促進する <教務部> イ グラウンドを使いやすくする <健康教育部> ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する <学年主任> エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す <教育環境部 健康教育部> オ 写真撮影・販売等の業務を削減する <管理職> カ ダイアルインを導入し、活用を進める <管理職> キ ICTを活用して業務の効率化を図る <DX推進PT> ク 会議の円滑化・充実を図る <全校> (3) 業務推進体制を整理する ア 校務分掌を整理する <管理職> イ 情報共有体制の強化を図る <全校> ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る <情報部>	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスをさらに向上させる イ <u>何を言っても大丈夫！困ったときはお互い様</u> ・教職員同士が気持ちよく業務を行えるよう、なんでも相談できる職員室の雰囲気づくりを行う (2) ア <u>知識の循環を進めよう！</u> <u>教材バンクで学びの連鎖</u> ・共有できる教材を増やし、効果的な教材研究の実施を推進する イ <u>整備で変わる！みんなのグラウンド</u> ・使用後や降雨後に点検・簡易整備を行うことで、使用したい時に使える環境を整備する ウ <u>分掌長さんそれやりますよ！アップデート</u> ・業務の平準化のため、アンケートを実施して分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る エ <u>管理上手で無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う <u>チェックでつなぐ安心安全！</u> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える <u>学校キレイ大作戦！</u> <u>整理整頓で清潔な教室を！</u> ・50周年記念事業で整備したHR教室・特別教室、廊下の掃除道具の状態を維持する <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する オ <u>プロにお任せ！思い出満載！</u> ・日常の風景や泊行事を含む行事の撮影及び、卒業アルバムの写真選定から作成までを業者に委託し、教員の業務を削減する カ <u>内線は過去！ダイアルインで未来！</u> ・ダイアルインを導入し、内線の負担を軽減する キ <u>ICT活用力で変わる！業務の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象としたICT活用能力向上のための研修を実施し、業務の効率化を図る ク <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> <u>柔軟に問題解決！</u> ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> <u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>分掌から飛び出し続けるPT！</u> ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する イ <u>飛び越えない「情報共有」！</u> ・業務に関する情報に洩れを生じさせないため、学級→学年主任→学部主事、各担当→係主任→分掌長、担当首席→教頭→校長・准校長と、順序だてた共有を図る ウ <u>進むシステム 減らそう業務</u> <u>チャンスの時間！</u> ・導入された新校務環境を活用し、個人や組織の生産性の向上を図るため、情報発信や業務の提案を行う	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクが全国平均より下回る〔100〕 イ ・学校教育自己診断教職員評価 「教職員での話し合い」82%〔79%〕 (2) ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120% イ ・学期に1回のにがりまき・溝清掃実施 ・グラウンド使用後の簡易整備割合確認 ウ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 エ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・年度初め、学期末に過不足の調整 年4回 ・掃除の時間及び参加人数の確認 オ ・写真販売システム、アルバム作成業者の選定、提携 カ ・ダイアルインシステムの導入 活用に関する状況を面談にて確認 キ ・研修実施後のアンケート結果考察 ク ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」80%〔76%〕 (3) ア ・首席・分掌長等の面談時に確認 イ ・首席・部主事等の面談時に確認 ウ ・職員室以外でMS365を利用したことがある 100% ・新環境を利用した業務改善ニュースを年6回発行する	
4 地域支援	(1)地域との連携強化を図る ア 校内の支援コーディネーター育成 <支援部、LS> イ 校外の支援コーディネーター育成 <支援部、LS>	(1) ア <u>未来をつなぐ次世代のLS育成！</u> ・後進育成として、年に5回・5人以上、LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する イ <u>学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！</u> ・担当市を中心に教育委員会と一緒に教員研修や施設見学などを実施する。年4回以上	(1) ア ・同行回数 年5回5人以上 イ ・研修及び施設見学 年4回以上	